

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	横山 美和 【ジェンダー学際研究専攻 平成18年度生】	<p>本論文は、19世紀後半の米国で展開された「月経」と女子高等教育および医学教育に関する論争を中心に、女性医師 M.P. ジャコービー (Mary Putnam Jacobi 1842-1906) の著書『月経中の女性の安静に関する問題』1877 (『安静に関する問題』と略記) に焦点を当て、当時の「月経」に対するジェンダー・バイアスの様相と抵抗的な科学知の生成過程につき考察した論考である。</p> <p>本論文の意義は、第1に、19世紀後半米国において、ハーバード大学教授 E. クラークらが唱えた「月経負荷説」に対し、ジャコービーが反駁して提示した「月経付加説」ともいうべき理論の具体相を明らかにした点にある。</p> <p>クラークにとり月経は、身体に負荷を与える現象であり、女性は男性と同等の勉学に従事すべきではないと主張した。一方、ジャコービーは、女性たちへのアンケート調査や自ら計測した実験データを収録した『安静に関する問題』において、栄養学の観点からは、月経は余剰に蓄積した血液の排泄現象であり負荷ではないとの説を示した。さらに月経に困難を呈していない女性が半数近く存在することを示し、月経時の女性の栄養状態や運動習慣、労働時間等の様々な要因との関係に注目した点も先駆的である。</p> <p>第2に本論文は、月経負荷説を疑問視するジャコービーの調査や大学卒業女性協会による『健康統計』作成の活動を、科学史家 S. ハーディングや D. ハラウェイが挑んだ科学知のジェンダー・バイアス解明の系譜に位置づけ、「科学の客観性神話」を問う一事例として論じた。さらにジャコービーが提唱した「栄養多寡変動説」は、後にそれを検証した男性医師の名を冠して「スティーヴンソン変動」と名付けられ (エポニミー)、それに対しジャコービーが抗議したことを明らかにした意義も大きい。</p> <p>本審査委員会は、2013年6月17日、7月25日、8月30日の3回開催され、8月30日には、公開発表会と最終試験が行われた。審査の過程では、「月経」に関わる医学、生理学上の位置づけ、ジャコービーが計測した実験データの解釈と評価、フェミニスト・スタンドポイント理論と科学知のジェンダー・バイアスという論証の相違点の明確化などについて論議されたが、最終審査段階では、適切な修正がなされた。公開発表会及び最終試験における応答内容を含め、最終審査会では、本論文が学位取得にふさわしい水準に達しているものと判定された。</p> <p>以上の結果を総合して、本審査会は申請者の論文を合格とし、お茶の水女子大学人間文化研究科の学位、博士 (学術)、Ph.D in History/Gender Studies を授与するものとした。</p>
論文題目	女性医師 M.P. ジャコービーの月経成因論の一考察 —19世紀後半米国における科学知のジェンダー・バイアスをめぐって—	
審査委員	(主査) 教授 舘 かおる	
	准教授 森 義 仁	
	教授 小 玉 亮 子	
	准教授 斎 藤 悦 子	
	三重大学特任教授 小 川 眞里子	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 可 ・ 否 )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	